

第 **58** 期

株主通信

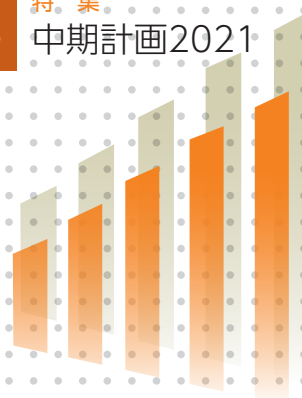
2018年4月1日～2019年3月31日



P.1 株主の皆様へ



特集
P.6 中期計画2021



トピックス
P.8 日本機械学会
優秀製品賞受賞！





代表取締役会長
高松喜与志

代表取締役社長
高松宗一郎

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第58期株主通信をお届けするに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

第58期を振り返りますと、日本経済は、企業収益や設備投資が増加し、雇用・所得環境も改善するなど、各種政策の効果もあって緩やかな回復基調で推移しました。工作機械業界では、2018年度の業界受注総額が1兆6,891億円(前年同期比5.1%減)と、過去最高額を記録した2017年度の反動を受けましたが、過去2番目の高水準となりました。

このような状況の中、当社グループでは、堅調な受注と高い受注残高を背景としてユーザーニーズを満たす製品群の提供に努めてきたことで、連結売上高が226億50百万円(同14.5%増)、営業利益が23億29百万円(同45.7%増)と、ともに過去最高を更新しました。

先行きにつきましては、通商問題の影響や中国経済の動向など、不透明な状況が続いている一方で、人手不足解消のための自動化・効率化や高付加価値製品に対する高い需要が期待されています。

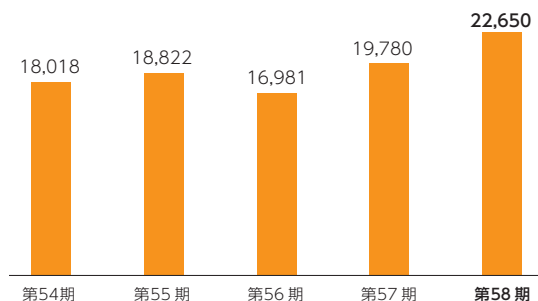
このように外部環境は期待と不安が混在していますが、当社グループは持続的成長を志向し、新中期経営計画「中期計画2021」を策定しました。「挑戦し、成長し続ける企業となるべく、3ヵ年で更なる企業基盤の強化を目指す」ことを基本方針とし、収益力の強化と売上高の拡大をはかっていきます。

初年度となる第59期は、最適生産の推進による売上高の確保、効率化・合理化による収益の改善に取り組み、増収増益を目指します。

TAKAMAZは株主の皆様のご期待に沿えるような会社であるべく一層精進してまいりますので、今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

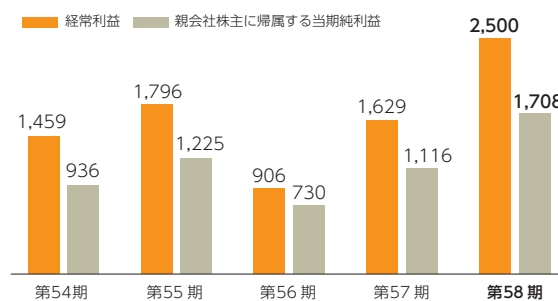
売上高

(単位:百万円)



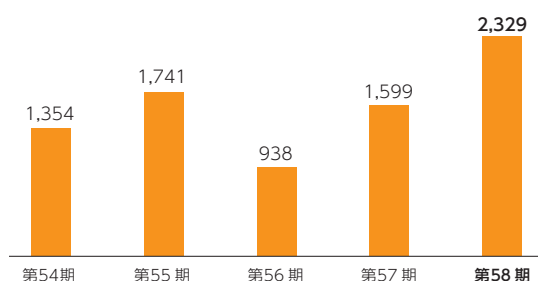
経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



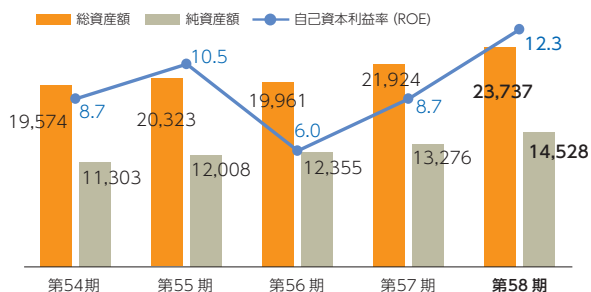
営業利益

(単位:百万円)



総資産額・純資産額・自己資本利益率(ROE)

(単位:百万円, %)



Q 第58期(2019年3月期)決算のポイントなどについて教えてください。

A 好調な受注環境を背景に、連結売上高が初めて200億円を突破し、営業利益は20億円を超える水準に達しました。

当社グループの主力である工作機械事業では力強い需要が継続し、受注高が185億4百万円となりました。過去最高記録を大きく塗り替えた第57期より減少しましたが、年間生産高に匹敵する金額であり、受注残高は第57期末とほぼ変わらない水準を維持しています。

このような状況の中で当社グループの業績も好調に推移し、連結売上高は226億50百万円(前年同期比14.5%増)、営業利益は23億29百万円(同45.7%増)、経常利益は25億円(同53.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は17億8百万円(同53.0%増)と、売上・利益ともに過去最高となりました。

第58期の工作機械事業では、主要な展示会への出展、プライベートショー開催などによる製品・システム群のプロモーションを推進し、需要確保に努めてきました。あわせて更なる販路拡大をはかり、広島駐在所の営業所格上げ(4月)、厚木営業所、広島営業所およびアメリカ販売子会社の事務所移転・拡大(10月)、タイ販売子会社の新支店開設(2月)を実施しました。

生産面では、生産性の向上をはかりながらフル生産を続け、高水準が続く需要に対応してきました。また、生産の拡大および効率化をはかるため、本社工場に隣接する土地および建物を11月に取得し、1月より第4工場として本格稼働させました。

IT関連製造装置事業では、安定需要に対する適切な生産の実施と利益管理の徹底に努め、自動車部品加工事業では、規模拡大に向けた新規受注の獲得とコストダウンの推進に注力してきました。

Q 中期計画2018が終了しましたが、振り返ってどのように総括されますか。

A 売上高の成長と収益性の改善を通じた企業価値の向上に努め、中期計画2018の目標を達成しました。

初年度は、内需、外需ともに力強さに欠ける状況で推移し、目標を下回る厳しいスタートでした。しかし2年目以降は工作機械需要が回復に転じ、需要拡大を追い風に戦略の着実な推進に努めてきたことで、中期計画2018の目標としていた「連結売上高220億円以上」「連結営業利益率10%以上」「連結ROE10%以上」の全てを達成することができました。

この3年間では、当社グループの特色であるソリューション提案型営業を推進し、海外強化のためメキシコおよびベトナムに販売子会社を設立しました。また、加工機械の導入、第4工場の取得などの設備投資とともに生産体制の強化をはかり、生産能力を拡大してきました。利益面では販売単価の改善とともにコストダウンに努めてきました。

このように取り組んできた戦略や中期計画2018目標の達成は、持続的な成長に貢献していくと考えています。

2019年3月期連結業績	
売上高	22,650 百万円 (前年同期比 14.5%増)
営業利益	2,329 百万円 (前年同期比 45.7%増)
営業利益率	10.3 % (前年同期は8.1%)
経常利益	2,500 百万円 (前年同期比 53.5%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,708 百万円 (前年同期比 53.0%増)
ROE	12.3 % (前年同期は8.7%)

Q 新しくスタートする中期計画2021での
取り組みを教えてください。

A 更なる企業基盤の強化を目指し、収益力の
強化、売上高の拡大に取り組んでいきます。

中期計画2021では、「挑戦し、成長し続ける企業となるべく、3ヵ年で更なる企業基盤の強化を目指す」ことを基本方針とし、最重要テーマとして「収益力の強化」「売上高の拡大」を取り上げました(具体的な目標値および戦略につきましては、6ページをご参照ください)。

目標達成に向けて、「生産能力の増強」「人材育成の強化」「中期IT戦略の推進」「収益源の多角化」「働き方改革の推進」に取り組むとともに、各事業において収益の強化と売上の拡大のための戦略を推進していきます。

工作機械事業では、変化する外部環境に対応し、国内新市場の開拓や海外展開の強化、タイムリーな新製品開発等によって需要確保に努めます。生産面では、経営資源の投入、業務改善・連携強化等の取り組みで最適生産を実施することによって生産拡大を実現していきます。また、原材料費の上昇、人件費等の固定費増加が見込まれますので、全社員が高いコスト意識を持って、効率化・合理化による収益の改善をはかります。

IT関連製造装置事業では、新規顧客・装置ラインナップの開拓や生産性向上を進めることで売上増加をはかるとともに、利益率の改善に取り組めます。

自動車部品加工事業では、新規取引先開拓を積極的に行うとともに、既存取引先との関係強化に努めることで売上拡大と黒字化に取り組めます。

その他、将来を見据えた企業基盤の強化のために取り組んでいるロボットエンジニアリング分野、食品加工機械分野等の新事業を育成していきます。



Q 第59期(2020年3月期)の見通しを教えてください。

A 連結売上高5.2%増、営業利益5.4%増の3期連続増収増益を目指します。

日本経済の先行きについては、輸出や生産の一部に弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が継続するとともに、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調が続くと期待されますが、海外経済の動向および影響等によっては、景気が下振れるリスクがあります。

工作機械業界の先行きについても、特に中国経済の動向に留意が必要ですが、内需・外需とも人手不足や熟練技術を補完するための自動化・効率化ニーズが見込まれ、自動車や半導体製造装置からの継続的な需要が期待されます。

このように、先行きは不透明感がぬぐえないながらも改善する見通しにあることから、当社グループの第59期事業計画は売上高238億35百万円、営業利益24億54百万円とし、売上・利益ともに過去最高となった第58期実績の上を目指します。持続的成長の実現に向けて、高水準の受注残高と底堅い需要を背景に売上を拡大させていくとともに、粗利改善や原価低減によって原材料費・固定費等のコスト増加を吸収し、利益を確保していきます。

2020年3月期連結業績予想

売上高	23,835 百万円 (前年同期比 5.2%増)
営業利益	2,454 百万円 (前年同期比 5.4%増)
経常利益	2,579 百万円 (前年同期比 3.2%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,819 百万円 (前年同期比 6.4%増)



Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

社長に就任して早1年が過ぎました。就任1年目の業績が過去最高となり、前社長から引き継いだ中期計画も達成できるなど、非常に良いスタートダッシュが切れました。

しかしながら、当社グループを取り巻く外部環境は変化し続けています。2年目を迎えるに当たり、環境の変化をポジティブに捉えて現状に満足せず、更に成長できるチャンスとして挑戦し続けていきます。

株主還元としましては、第58期では前期を2円上回る年間22円(中間8円、期末14円)を配当させていただきました。第59期では更に3円増配した年間25円(中間10円、期末15円)を予定しています。

当社グループが成長していく中で株主の皆様へ還元していくことも非常に重要と考えておりますが、当社グループは製造業として、将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資を優先し、必要な内部留保を確保していきます。

挑戦し、成長し続ける企業として、全社員一丸で経営にあたってまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご指導を心よりお願い申し上げます。

特集 中期計画2021

当社グループは2019年度を初年度とする3ヵ年計画「中期計画2021」を策定しました。収益力の強化と売上高の拡大に取り組み、企業基盤の強化を目指します。

基本方針

挑戦し、成長し続ける企業となるべく、
3ヵ年で更なる企業基盤の強化を目指す。

最重要テーマ

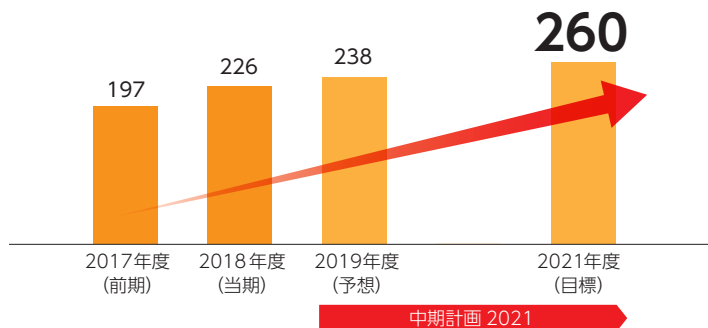
(1) 収益力の強化 (2) 売上高の拡大

2021年度数値目標

(1) 連結売上高営業利益率	10%以上
(2) 連結 ROE	10%以上
(3) 連結売上高	260億円以上

連結売上高の推移

■ 売上高 (単位: 億円)



中期戦略 (経営目標達成のための戦略)

全社

- (1) 生産能力の増強
- (2) 人材育成の強化
- (3) 中期 IT 戦略の推進
- (4) 収益源の多角化
- (5) 働き方改革の推進

工作機械事業

- (1) 国内新市場の開拓
- (2) 海外展開の強化
- (3) 市場環境変化に対応した新製品開発
- (4) 最適生産の推進
- (5) 品質付加価値の創出
- (6) 利益率の改善

IT関連製造装置事業

- (1) 新規顧客・装置ラインナップの開拓
- (2) 利益率の改善

自動車部品加工事業

- (1) 売上高の拡大

第58期 売上高構成比



工作機械事業

売上高 **20,557**百万円
(前年同期比 16.0%増)

営業利益 **2,242**百万円
(前年同期比 46.3%増)

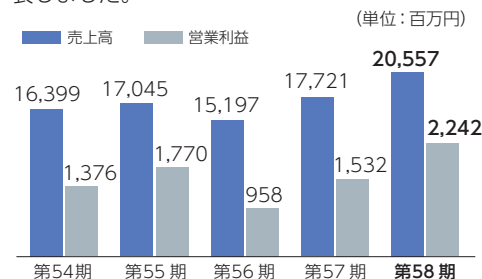


営業面では、IMTS2018(アメリカ)やJIMTOF 2018(東京)等の展示会に出展し、国内・海外でプライベートショーを開催してきました。また、創業70周年を記念したユーザ様・ディーラ様向けキャンペーンを展開してきました。

地域別の売上高は、国内向けが好調に推移する中、アジア向けが大きく伸長した結果、内需が137億40百万円(前年同期比14.8%増)、外需が68億17百万円(同18.5%増)でした。外需比率は33.2%(前年同期は32.5%)となりました。

製品面では、ロングセラー機である[XL-100]

を進化させた[XT-6/XT-6M]、加工可能なワークサイズを拡大した[XWT-10]、一貫加工で工程集約のニーズに応える[XYT-51]の3機種を発表しました。



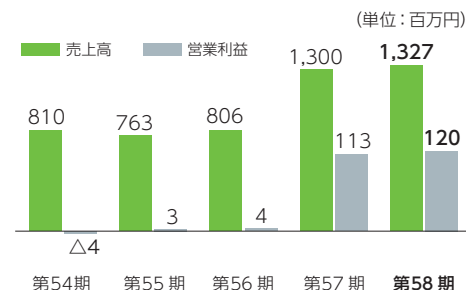
IT関連製造装置事業

売上高 **1,327**百万円
(前年同期比 2.1%増)

営業利益 **120**百万円
(前年同期比 6.1%増)

既存取引先から安定需要が続く中で、適切な生産に努め、売上高の確保をはかってきました。

また、コストダウンの推進、利益管理の徹底に努めてきたことで営業利益が大きく改善し、売上高・営業利益ともに2期連続で過去最高を更新しました。



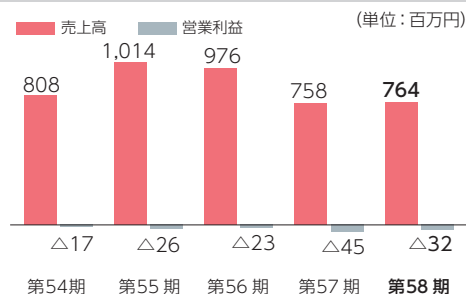
自動車部品加工事業

売上高 **764**百万円
(前年同期比 0.8%増)

営業利益 **△32**百万円
(前年同期は△45百万円)

新規部品の受注に向けた積極的な営業活動を推進するとともに、タイの連結子会社では新規設備投資を実施しました。

また、生産の合理化・効率化によるコストダウンの推進にも注力してきましたが、売上高が前期同水準にとどまったことで固定費が吸収できず、営業損失の計上となりました。



TOPICS

展示会出展

▼MEX金沢2019

5月16日～18日の3日間、当社の本社所在地である石川県にて、機械工業見本市「MEX金沢2019」が行われました。今年は3日間合計で約6万人もの来場者があり、会場は大いに盛り上がりを見せました。

当社は、コンパクトながら高剛性かつ高精度な加工を実現する自慢の製品8機種を展示しました。また、機械の異常を察知できる自社開発のIoTシステムなど、当社が注力している新技術への取り組みもご紹介し、多くのご好評をいただくことができました。



▼CIMT2019

4月15日～20日の6日間、中国北京にて「CIMT2019」が行われました。CIMTは隔年で開催され、世界の主要な工作機械関連の企業が一堂に集まる中国最大規模の展示会です。

人件費が高騰する中国では自動化技術に高いニーズがあるため、自動化ノウハウを持つ当社のブースは来場者の興味を惹きつけました。

中国の景気減速が懸念されている中での開催となりましたが、会場では設備投資への強い意欲が見られ、当社も多くの受注、引合をいただきました。



第4工場稼働開始

当社は2018年11月、本社工場に隣接する建屋を取得し、2019年1月より第4工場として稼働を開始しました。

第4工場に工作機械の付属装置であるローダ等の組み立て工程を本社工場から移管することで、工作機械本体の生産スペースを拡張し、生産能力の拡大をはかっています。

また、これまで点在していた製品・部品保管場所を集約したことで、更なる業務効率化も実現しました。



日本機械学会優秀製品賞受賞

当社製品「SKV-8」が、一般社団法人日本機械学会より「日本機械学会優秀製品賞」を受賞しました。

同賞は、優れた技術力をもとに製造され、社会および産業界から広く高い評価を受けるとともに機械工学・機械技術の発展に寄与した製品に贈られるものです。

「SKV-8」は、「スカイビング加工」という特殊な加工方法を初めてコンパクトな機械サイズで実現した製品です。部品完成までの所要時間短縮や設備の集約を実現し、生産性を向上できる点が受賞につながりました。



タイ販売子会社 新支店オープン

2月、タイの販売子会社TAKAMATSU MACHINERY THAILANDが、新たにイースタンシーボード支店を開設しました。

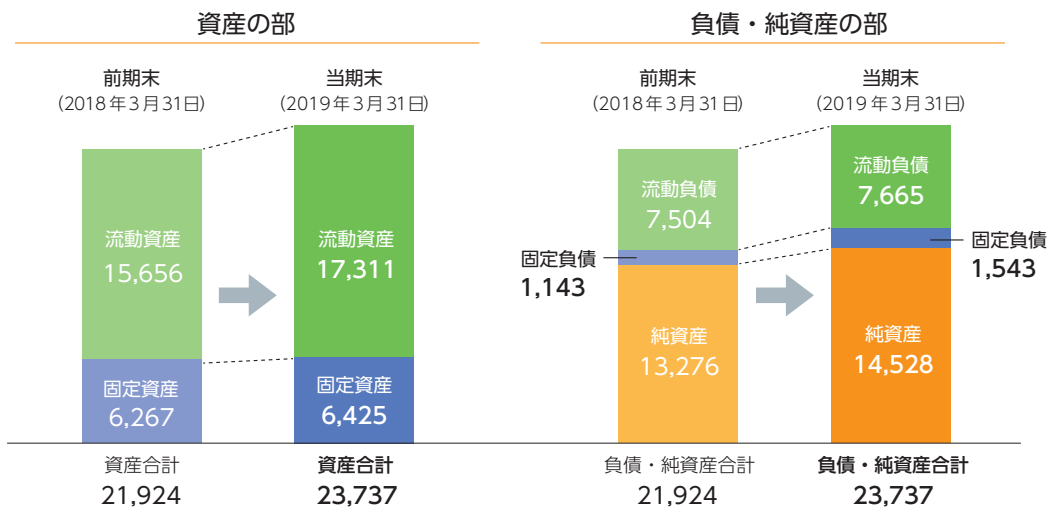
当支店にはショールームを備え、当社を代表するXシリーズや、グローバル戦略機GSLシリーズなどを展示しています。

このたびの支店開設により、一層きめ細やかで素早い対応を行い、タイにおける更なるシェア拡大をはかっています。



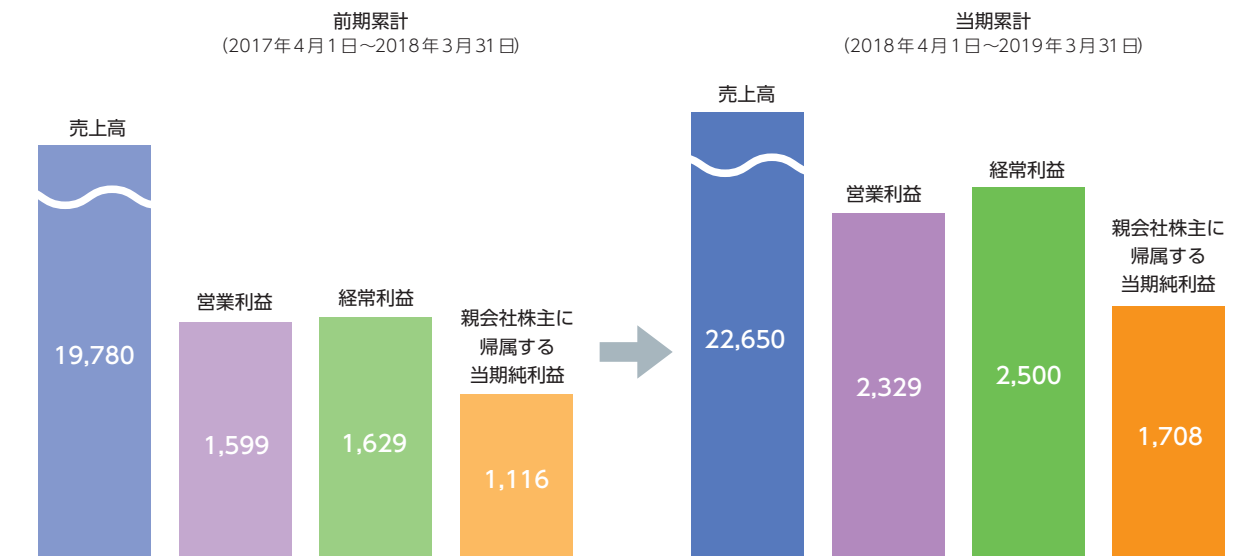
連結貸借対照表の概要

(単位: 百万円)



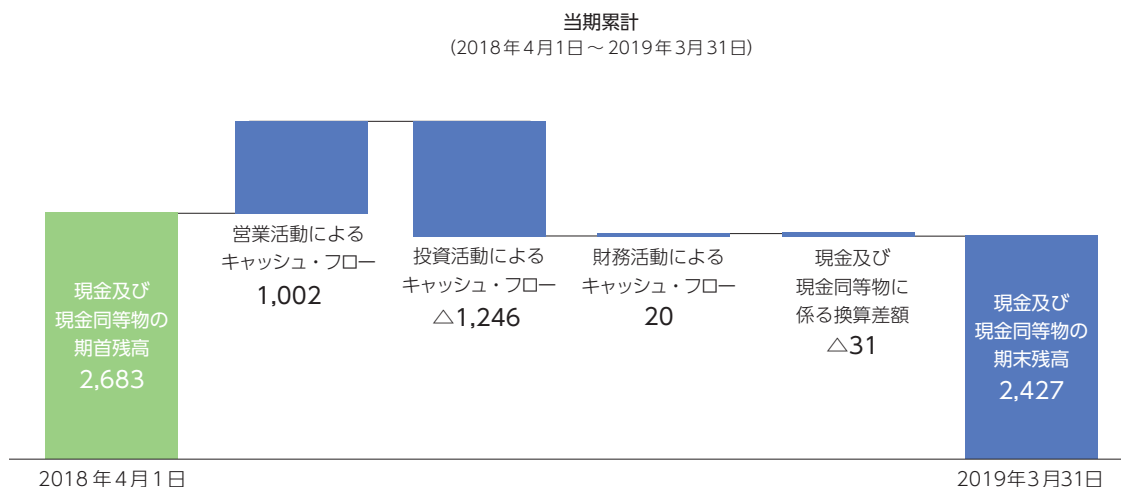
連結損益計算書の概要

(単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



財務のポイント

■ 資産

流動資産の主な変動要因として、受取手形及び売掛金が12億46百万円減少しましたが、電子記録債権が20億6百万円、たな卸資産が4億73百万円、現金及び預金が4億45百万円増加しました。

固定資産の主な変動要因として、土地が1億99百万円増加しました。

■ 負債

流動負債の主な変動要因として、支払手形及び買掛金が3億89百万円減少しましたが、電子記録債務が4億46百万円、未払法人税等が1億47百万円増加しました。

固定負債の主な変動要因として、長期借入金が3億37百万円増加しました。

■ 純資産

主な変動要因として、利益剰余金が14億81百万円増加しました。

なお、自己資本比率は61.0%であります。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

10億2百万円の資金流入(前年同期は13億60百万円の資金流入)でした。

主な流入要因は、税金等調整前当期純利益の計上等であり、主な流出要因は、売上債権の増加、法人税等の支払、たな卸資産の増加等であります。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

12億46百万円の資金流出(前年同期は25百万円の資金流出)でした。

主な流出要因は、有形固定資産の取得による支出や定期預金の預入による支出等であります。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

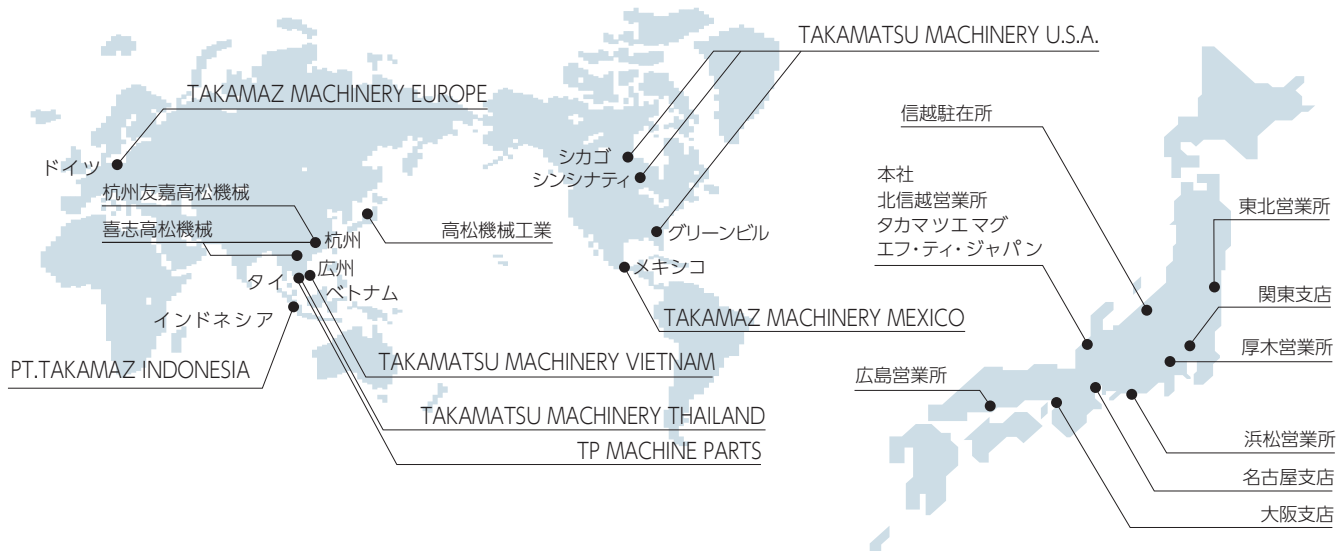
20百万円の資金流入(前年同期は6億28百万円の資金流出)でした。

主な流入要因は、長期借入れによる収入であり、主な流出要因は、配当金の支払や長期借入金の返済による支出等であります。

☞ 詳細な財務情報は、当社IRサイトよりご覧いただけます。

📄 <https://www.takamaz.co.jp/ir/>

ネットワークとサービス体制



生産拠点



本社工場(工作機械事業)



開発センター(IT関連製造装置)



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



第4工場(工作機械事業)

XT-6 / XT-6M (M=回転工具搭載)

当社フラッグシップがさらに進化を遂げる

「XT-6」は、長年お客様に愛されてきた当社を代表する製品「XL-100」の次世代機として登場した製品です。従来機より更に操作性・高速性をアップしつつも、省スペースを実現するコンパクトな設計はそのまま維持しています。操作性の向上がはかれるタッチパネルを搭載でき、「見える化」を促進するIoT技術に対応が可能ということもあり、お客様から生産性向上への期待の声が数々寄せられています。

発売開始からこれまで、当社の創業70周年記念プライベートショーをはじめとした展示会などにて、当製品をPRしてきました。今後も、多くの方にご愛用いただけるよう、国内外の各地で製品の魅力を広めていきます。



新技術への取り組み — 大学との共同研究事例ご紹介 —

パイプフレーム構造を用いた小形工作機械

新たな工作機械の構造体の提案

生産スペースが限られる生産現場では、より小形な工作機械が求められます。しかし、小形で軽量にした結果、工作機械の性能を落とすのでは、生産現場では使いものになりません。

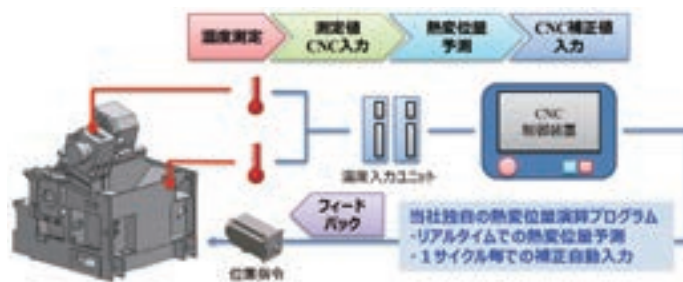
そこで、新たな工作機械の構造体として「パイプフレーム構造」を用いた小形工作機械の研究をしています。小形化・軽量化を実現しながらも、工作機械に求められる剛性を確保し、実生産に対応するため必要となる「切りくず排出空間」も得られる、画期的な構造となっています。



【共同研究】金沢工業大学 【特許】第 5019952, 5786226 号

熱変位補正システム

熱変位による課題を解決、高い加工精度も実現



工作機械で加工物の加工を行う際、「使用条件」と「環境条件(工場温度など)」により機械温度が変化することによって、加工寸法値が変化し、部品の寸法誤差が生まれる原因となります。

この課題を解決するため、加工寸法値の変化を抑制するシステム「熱変位補正システム」を開発しました。機械各部の温度変化の様子から、機械本体が熱の影響によってどの程度変形するかを予測し、変形を考慮した値を補正することで高い加工寸法精度の維持を可能としました。

【共同研究】金沢大学 【特許】第 4450722 号

会社概要

商号	高松機械工業株式会社
英文商号	TAKAMATSU MACHINERY CO., LTD.
設立	1961年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	534名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・CNC旋盤等の製造、販売およびサービス・メンテナンス ・部品、コレットチャック等の製造、販売 ・IT関連製造装置の製造 ・自動車部品の加工
ホームページアドレス	https://www.takamaz.co.jp

役員 (2019年6月25日現在)

代表取締役会長	高松 喜与志
代表取締役社長	高松 宗一郎
専務取締役	溝口 清
常務取締役	徳野 穰
常務取締役	磯部 稔
取締役	四十万 尚
取締役	前田 充夫
取締役	中西 与平
取締役	村田 俊哉
取締役(社外)	中西 祐一
取締役(社外)	石原 多賀子
常勤監査役	成田 秀信
監査役(社外)	杖村 修司
監査役(社外)	坂下 清司

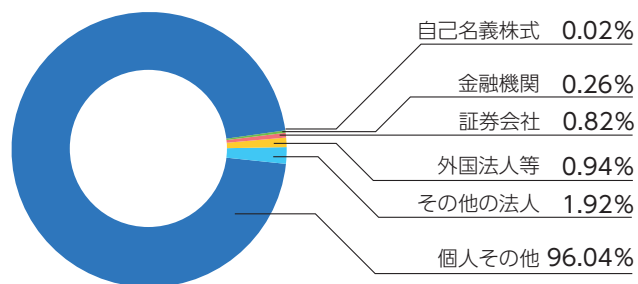
株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000 株
発行済株式総数	11,020,000 株
1単元の株式数	100 株
株主数	4,168 名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	866	7.87
株式会社タカマツ	810	7.35
北国総合リース株式会社	433	3.93
株式会社北国銀行	408	3.70
日本生命保険相互会社	384	3.48
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
株式会社朝日電機製作所	355	3.22
高松 明 毅	330	3.00
高松機械工業社員持株会	324	2.95
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	321	2.92

所有者別持株比率



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日
 (1) 定時株主総会 3月31日
 (2) 期末配当金 3月31日
 (3) 中間配当金 9月30日
 (4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務
 取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031
 (インターネット
 ホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 当社ホームページに掲載
<https://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
 TEL 076-274-1410(直通)
 FAX 076-274-1418

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

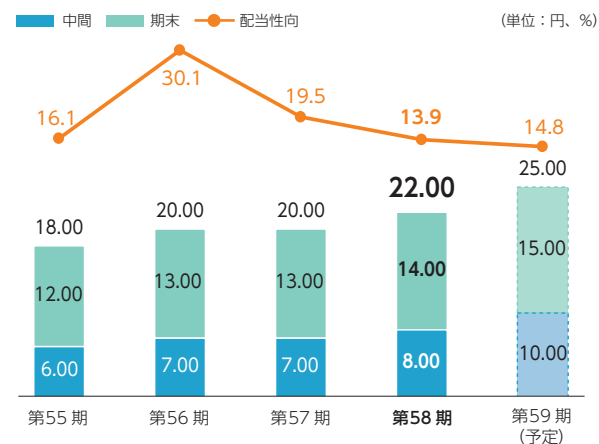
株価・出来高の推移



配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、安定的な配当水準を維持していく方針です。また、将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資に充当するため、必要な内部留保を行ってまいります。当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としています。

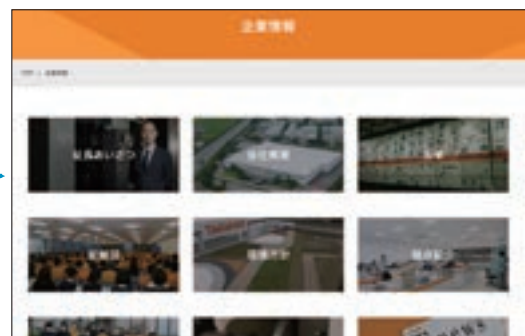
1株当たり配当額



ホームページのご案内

このたび高松機械工業のホームページをリニューアルいたしました。ホームページでは、様々な企業情報や展示会・イベント情報、IR情報をお届けしています。どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください！

当社ウェブサイト「トップページ」
<https://www.takamaz.co.jp>



アンケートご協力をお願い〈单元株主の皆様へ〉

当社は、株主の皆様のお声を頂戴するため、アンケートを実施しています。同封したハガキに質問へのご回答をご記入のうえ、切手を貼らずにそのままご投函ください。頂戴したご意見は今後の株主通信やIR活動へ活かしていきます。

皆様からの貴重なご意見をお待ちしております。お手数をおかけしますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



ハガキによるご回答

同封のハガキのアンケート回答欄にご記入のうえ、ご返送ください。



—— 締め切り ——

2019年9月30日(月)
当日消印有効